

# イチオシ!

## M OVIE

### 『テザ 慟哭の大地』

現在“アフリカの優等生”といわれるエチオピアは、民主化政権が誕生するまでは帝政と社会主義を掲げた軍事独裁体制が続き、飢餓、内戦、国境紛争という苦い経験をしてきた。主人公アンベルブルの人生は、まさにこの激動の20年間そのもの。医学を学びに西ドイツに留学した1970年代、祖国の医療発展のために帰国するも東ドイツに送られ人種差別に苦しんだ80年代が混然と追想される。そして90年、片足を失った彼は再び故郷に帰ってきた。幼少期の記憶と大地の霊の夢に悩まされるアンベルブルだったが、不思議な女アザヌと出会い、内戦が黒い影を落とすこの国で希望を見だしていく。エチオピアの現地語であるアムハラ語の「テザ」が意味するのは「朝露」、そして、「幼少期」だ。(文=高倍宣義)



2008年／エチオピア・ドイツ・フランス／140分  
 監督：ハイレ・ゲリマ  
 出演：アーロン・アレフェ、アビユ・テドラ、テジェ・テスファウンほか  
 公開：6月18日(土)より、シアター・イメージフォーラム(東京・渋谷)にて公開  
 URL：www.cinematrix.jp/teza/  
 問：シネマトリックス TEL：03-5362-0671

## E VENT

### 『全国学校・園庭ピオトープコンクール2011』

生態系の大切さを子どもたちに学んでもらおうと学校などで取り入れられているピオトープ。学校周辺の自然を手本に多くの生き物が暮らせる空間をつくることで、命のつながりを知り、自然と人の共存の大切さを学ぶ環境教育の一環として活用されている。12年目を迎えるこのコンクールでは、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学での工夫をこらしたピオトープの取り組みを募集中。先生や保護者、地域の人々などと連携しながら、子どもたちが計画から整備まで積極的にかかわっている実践例をぜひ応募してほしい。

応募方法：自己推薦の場合、ウェブサイトから応募用紙をダウンロード、もしくは返信用封筒で応募用紙を取り寄せ、必要事項を記入の上、写真とともに郵送。  
 応募締め切り：6月30日(木)消印有効  
 URL：www.ecosys.or.jp/eco-japan/  
 問：財団法人日本生態系協会 全国学校・園庭ピオトープコンクール係  
 TEL：03-5951-0244

## B OOK

### 『チョコレートと青い空』

小学5年生の主人公、周二の家は専業農家。あることがきっかけで、ガーナから農業技術を学びにきた研修生、エリックさんを受け入れることに。そして、チョコレートの原料カカオの産地がガーナであることを知った周二は、「チョコレートがいっぱいある国でいいな!」とうらやましが。だがエリックさんからは、ガーナの子どもたちは学校も行かずにカカオ畑で働き、チョコレートなど食べたことがないことも教えられる。本書は、知らないことが最大の敵であること、そして公平であることの大切さを訴える児童書。



堀米薫 作  
 小泉のみ子 絵  
 そうえん社  
 998円(税込)

この本を  
 1人の方に  
 プレゼント  
 詳細は  
 38ページへ

## B OOK

### 『支援のフィールドワーク 開発と福祉の現場から』

開発途上国のさまざまな問題の解決に向け支援する人や現地で調査活動などを行うフィールドワーカーは、国際協力の現場でさまざまな“場面”に遭遇している。紛争地パレスチナで家族を失った母親との出会いを通して支援を決意した「つき動かされる」という場面、農村開発を行うカンボジアで“支援者とは何か”の自問自答から生まれた「ゆるぐ」という場面など。本書では、この2つに加え、「板ばさみになる」「ひらかれる」「はぐまれる」という計5つの場面ごとに、支援者・フィールドワーカーのエピソードを紹介している。“相手を理解しながら支援するべき”という機運が高まる「支援」の領域と、“フィールドワークで得た研究を社会のためにいかに役立てるか”という課題を抱える「研究」の領域をつなぐ懸け橋になれば。そう著者たちが願いを込めた一冊。



小國和子・亀井伸孝・飯嶋秀治 編  
 世界思想社  
 2,415円(税込)

この本を  
 1人の方に  
 プレゼント  
 詳細は  
 38ページへ